

九州圏広域地方計画 計画原案 説明資料

(九州圏広域地方計画協議会報告案)

令和8年4月28日
九州圏広域地方計画推進室

目次

はじめに	2	【PJ3】	
第1部 九州圏の現状と課題	3	強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト	14
【位置・圏域規模】		1. 持続可能な産業の形成に向けた基盤整備	
【人口動向】		2. 新生シリコンアイランド九州の実現	
【圏域構造】		3. カーアイランド九州の発展	
【公共交通】		4. フードアイランド九州の更なる発展	
【産業・雇用・労働環境】		5. 観光アイランド九州の形成	
【通商・貿易】		6. 地域の特色豊かな産業の更なる発展と新たな産業の創出	
【流通】		【PJ4】	
【観光・交流】		中枢中核都市を核とした魅力あるまちづくり推進プロジェクト	20
【災害と環境保全】		1. 中枢中核都市等を核とした自立型広域連携	
第2部 九州圏の将来像	9	2. 多世代交流の拠点となる都市コミュニティの再生	
第3部 将来像実現へ向けた目標	10	3. 地域を支える多様な人材が活躍できる環境づくり	
第1章 【目標1】成長エンジン「アイランド九州」		【PJ5】	
第2章 【目標2】自立型広域連携「アイランド九州」		離島・半島・中山間地域・都市をつなぐ地域生活圏形成プロジェクト	23
第3章 【目標3】強く美しい「アイランド九州」		1. 交通ネットワークとデジタルの融合による地域生活圏の形成推進	
第4部 九州圏における主要な施策（プロジェクト・施策）	10	2. 小さな拠点を核とした集落生活圏の構築による地域生活圏の形成	
【PJ1】		3. 地域生活圏を支える地域づくり・人づくり	
アジア、そして世界と日本の交流・連携・成長拠点プロジェクト	11	【PJ6】	
1. アジア等諸地域との交流・連携の促進		経験をいかした防災と豊かな環境の保全・創出プロジェクト	25
2. 国内各圏域とのシームレスな連結強化による交流・連携の促進		1. 地域の安全、安心、暮らしや経済を支える国土基盤の高質化・強靱化	
3. 九州圏に活力をもたらす国内外との交流・連携の促進		2. 人口減少下の国土の利用・管理	
【PJ2】		3. グリーン国土の創造	
ひとつにまとめ活力を創出する交流・連携プロジェクト	13	【PJ7】	
1. 循環型連携の強化によるシームレスな九州圏の構築		国内他圏域との連携プロジェクト	28
		1. 国内他圏域との交流・連携、広域的な機能の分散と連結強化	
		第5部 計画の推進等	29

はじめに

(1) 計画の意義

- 第1次（昭和34年）から、5次（平成10年）にわたって策定された「九州地方開発促進計画」、第1次（平成21年）及び第2次（平成28年）に策定された「九州圏広域地方計画」に基づき、九州圏の発展に取り組んできた。
- 時代の潮流と課題に適切に対応していくため、長期的かつ総合的な観点から九州圏の今後を展望し、圏域の形成・発展に関して重点的に取り組むべき基本的な対応方針等を明らかにする新たな九州圏広域地方計画を策定する。

(2) 対象区域（圏域）

- 国土形成計画法及び同法施行令に基づく、九州圏（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県を一体とした区域）である。

(3) 計画期間

- 本計画の計画期間は、2050年、更にその先の長期を見据えつつ、今後おおむね10年間とする。

第1部 九州圏の現状と課題

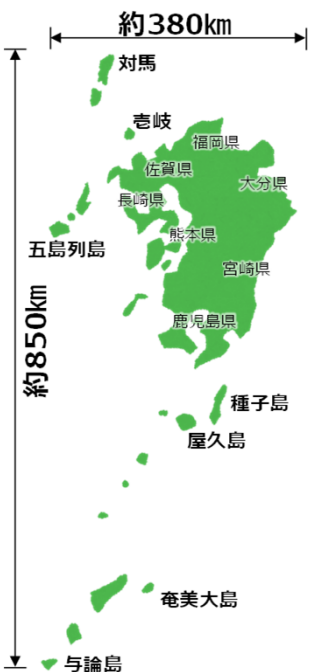
【位置・圏域規模】

- 九州圏は、日本列島の南西部に位置し、7県からなる四方を海に囲まれた一定のまとまりを持つ圏域である。
- 我が国の中でアジア大陸に最も近い圏域であり、アジアの主要都市とも近接していることから、アジアの玄関口（ゲートウェイ）に位置付けられる。

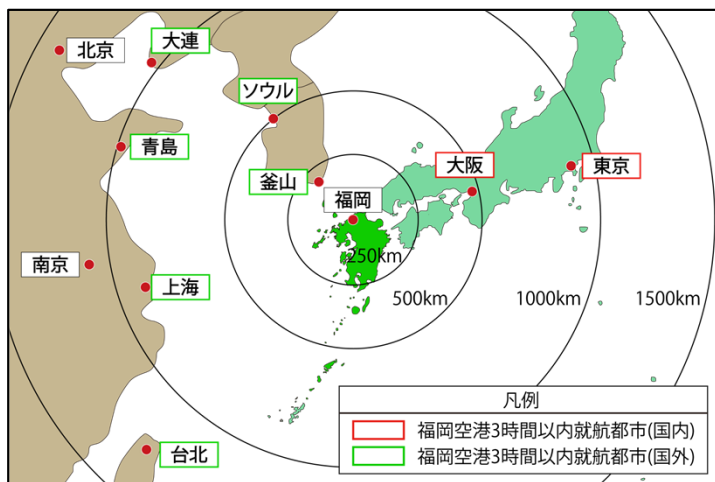
【人口動向】

- 2024年現在の人口は約1,248万人であり、2050年には235万人（全体の18.8%）が減少する見込みである。
- 25～64歳が転入超過傾向を示しているものの、24歳以下の若い世代で転出超過傾向が顕著であり、全体としては転出超過となっている。
- 外国人労働者数は増加傾向であり、外国人留学生数はコロナ禍により減少傾向であったが、2024年にはコロナ禍直前の値まで回復している。

<九州圏の構造>

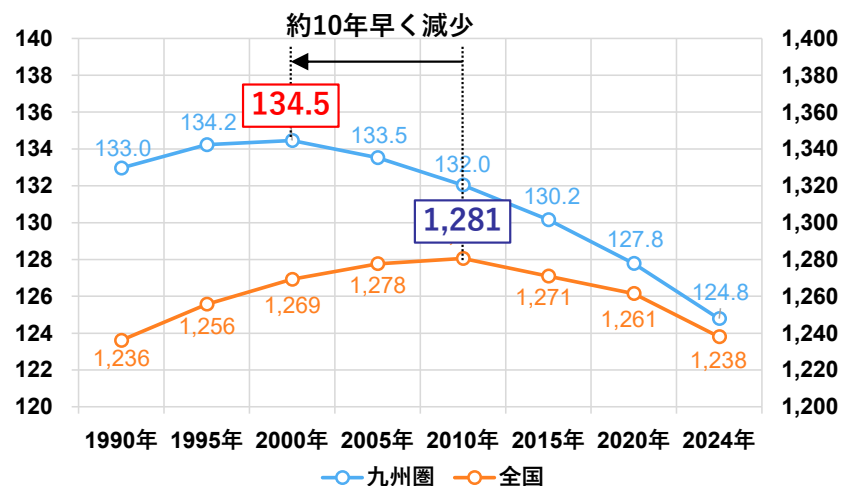


<福岡と国内・アジア主要都市との距離>

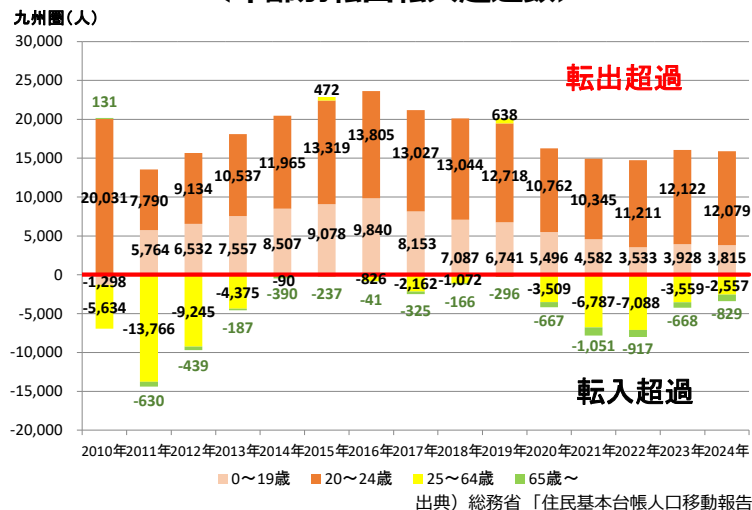


出典) 国土地理院地図を基に作成

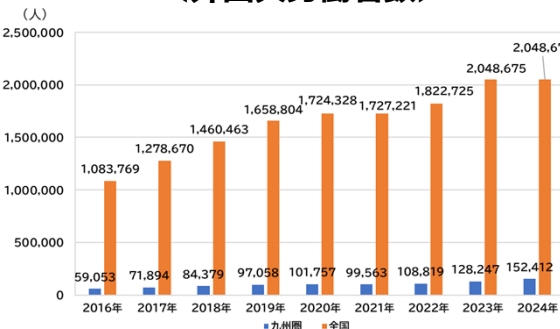
<人口の推移>



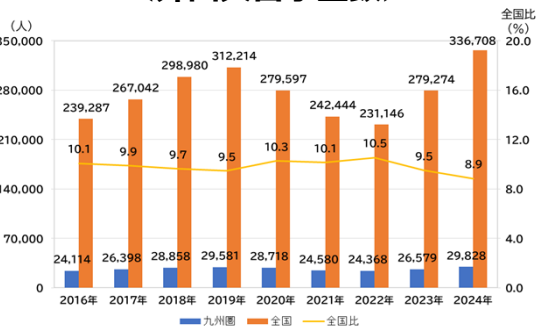
<年齢別転出転入超過数>



<外国人労働者数>



<外国人留学生数>



第1部 九州圏の現状と課題

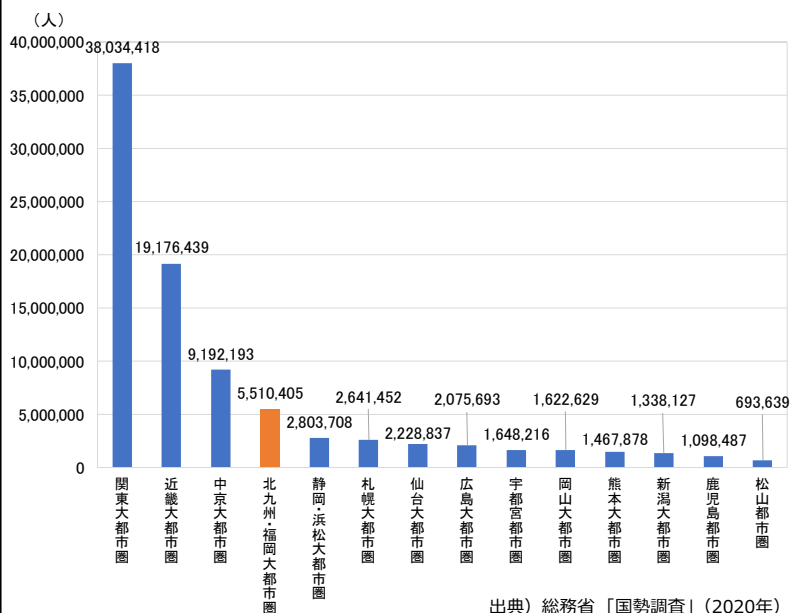
【圏域構造】

- 福岡市と北九州市を中心に連携した都市圏が形成されており、東京圏、大阪圏、名古屋圏の三大都市圏に次ぐ大都市圏となっている。
- 政令指定都市や県庁所在地等を中心に、圏域各地に人口10万人以上の都市がバランスよく分散した圏域構造を有している。
- 東九州自動車道（北九州市・宮崎県日南市間）や西九州新幹線（武雄温泉・長崎間）が開通し、都市間連携軸の形成が大きく進んでいる。

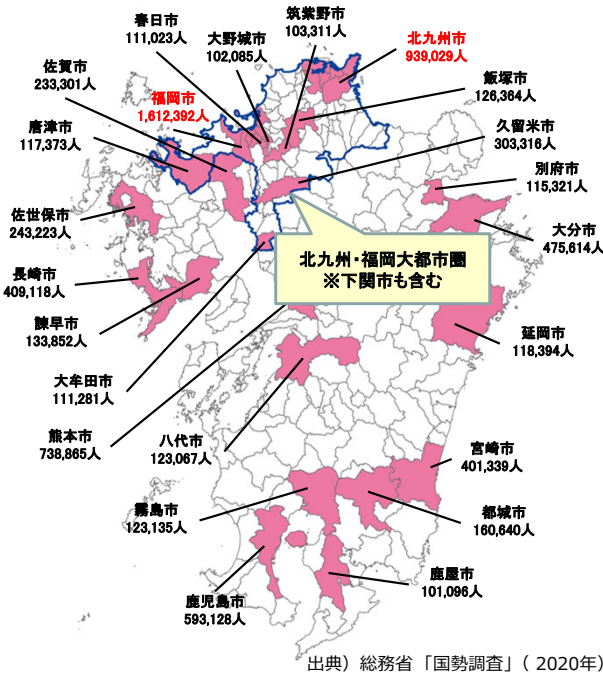
【公共交通】

- 人口減少やマイカー利用の増加によって、公共交通の利用者が長期的に減少傾向にある。

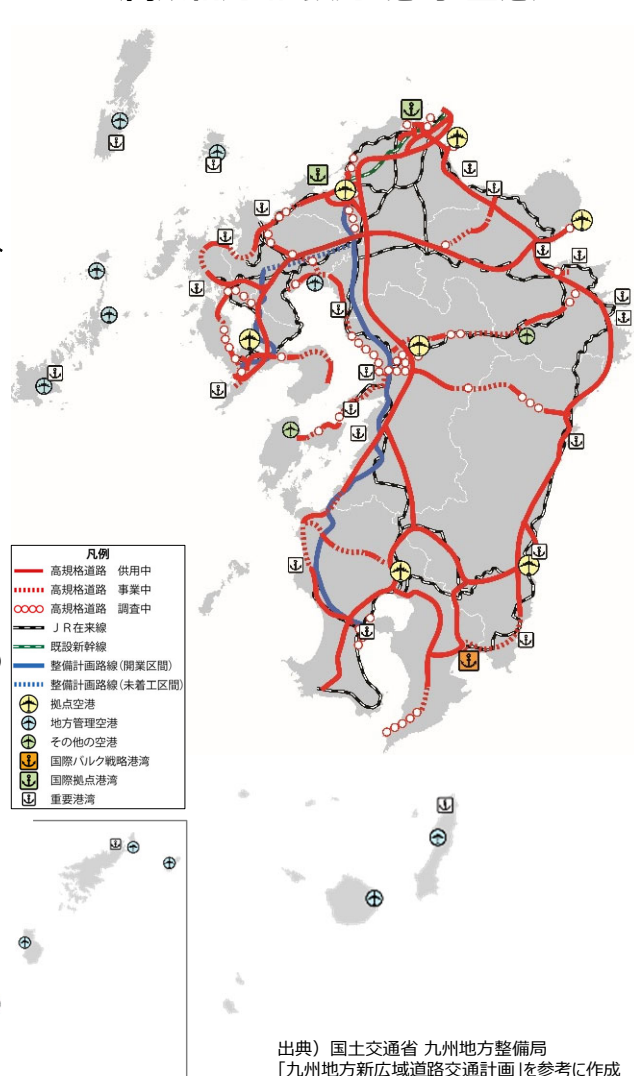
<全国の都市圏人口>



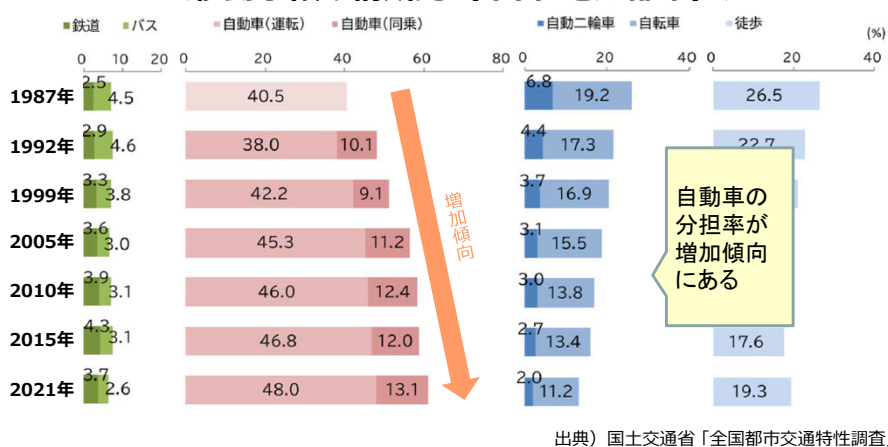
<2020年の人口10万人以上都市マップ>



<高規格道路・鉄道・港湾・空港>



<移動手段の構成比(平日・地方都市)>



第1部 九州圏の現状と課題

【産業・雇用・労働環境】

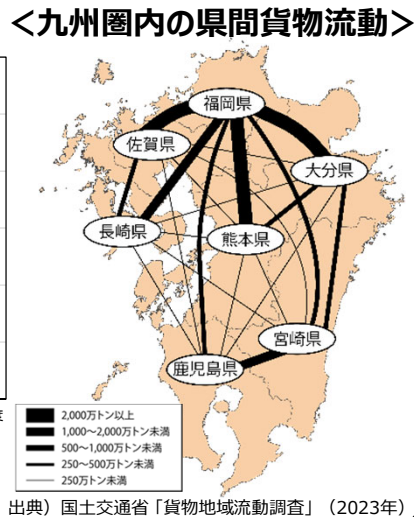
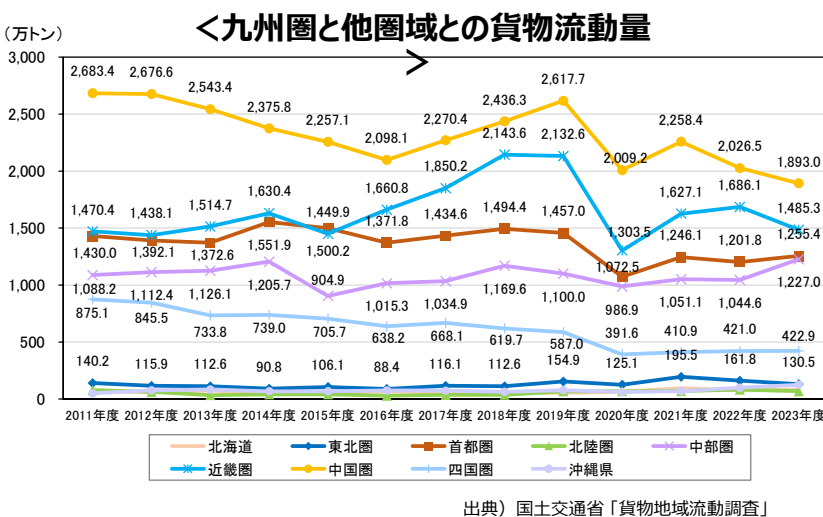
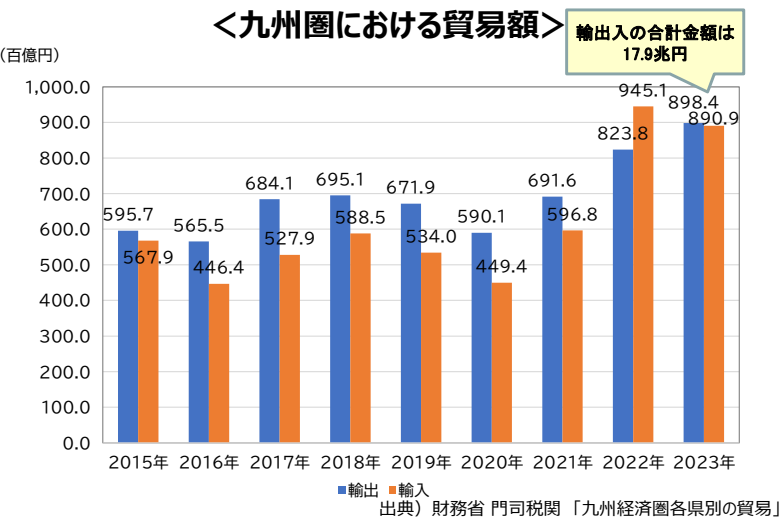
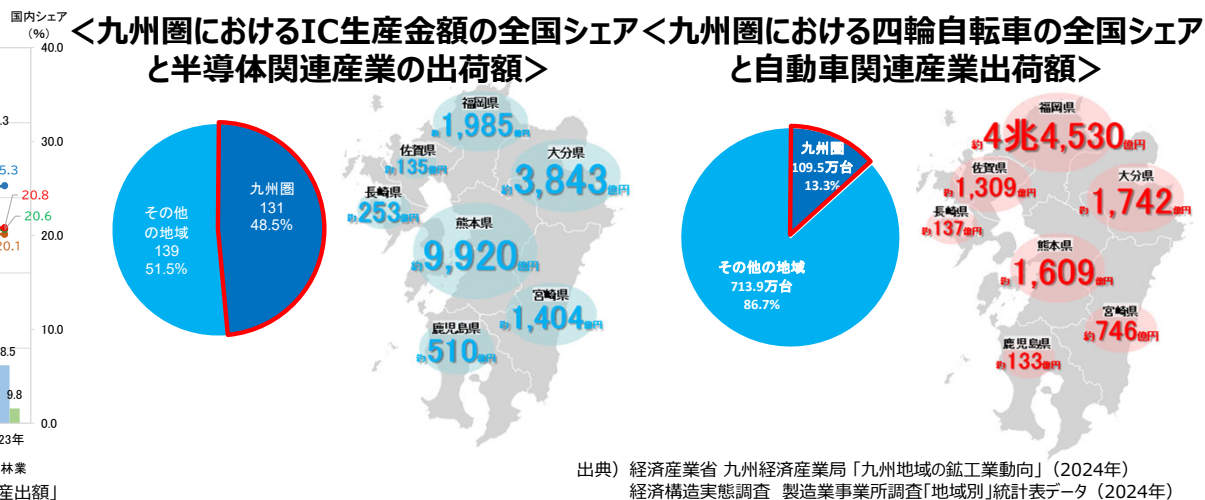
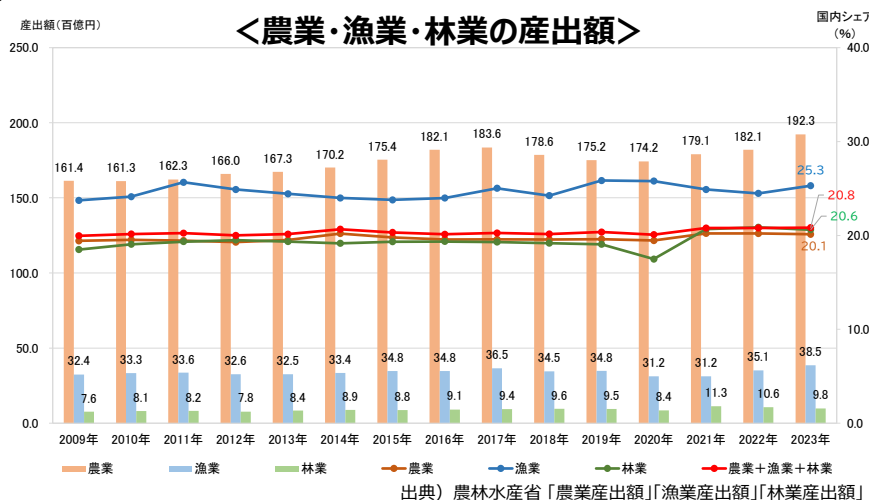
- 農業産出額は1.92兆円（全国の20.1%）、漁業産出額は0.39兆円（全国の25.3%）、林業産出額は0.10兆円（全国の20.6%、いずれも2023年）であり、全国シェアが高い。
- IC（集積回路）の生産額が我が国全体の48.5%（2024年）を占め、世界に向けたビジネスネットワークを形成している。
- 北部九州では4社の自動車組み立て工場が立地しており、熊本県では二輪車や汎用エンジンも生産している。

【通商・貿易】

- 貿易額は、輸出9.0兆円、輸入8.9兆円、合計17.9兆円（全国の8%、2023年）で、九州圏では2021年までは黒字で推移し、2022年は赤字に転じたが、2023年には黒字となった。

【流通】

- 他圏域との貨物流動量は、隣接する中国圏が最も多く、次いで近畿圏、首都圏で、コロナ禍前までは特に近畿圏が増加していた。
- 県間貨物流動は、福岡県を中心とした県間流動が多い。

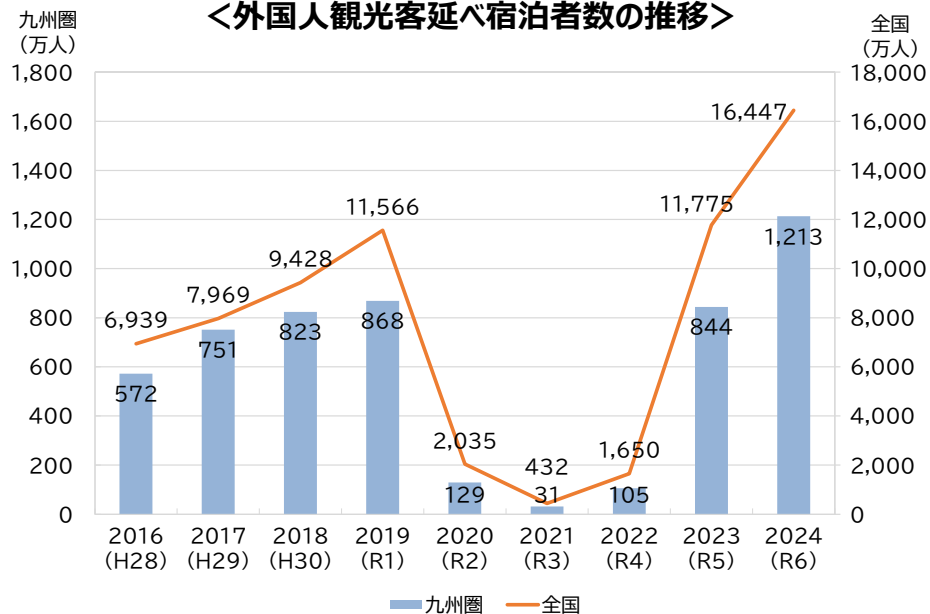


第1部 九州圏の現状と課題

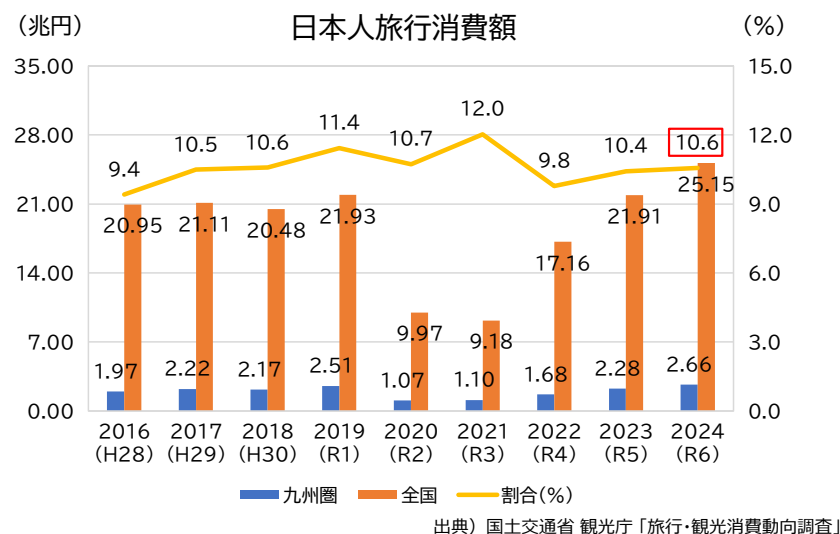
【観光・交流】

- 外国人延べ宿泊者数は年々増加傾向にあったが、コロナ禍により、2020年以降は減少した。その後、2022年10月の水際対策緩和を境に増加に転じ、2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後において急増した結果、2024年の外国人延べ宿泊者数は、2019年比39.7%とコロナ禍前より増加した。
- 圏域内各県の外国人延べ宿泊者数のコロナ禍前後の回復率には大きな差があり、需要の偏在傾向がみられる。
- 日本人の旅行消費額は全国比10.6%（2024年）であるところ、訪日外国人は全国比6.8%（2024年）であり、日本の中でも偏在傾向がみられる。

<外国人観光客延べ宿泊者数の推移>



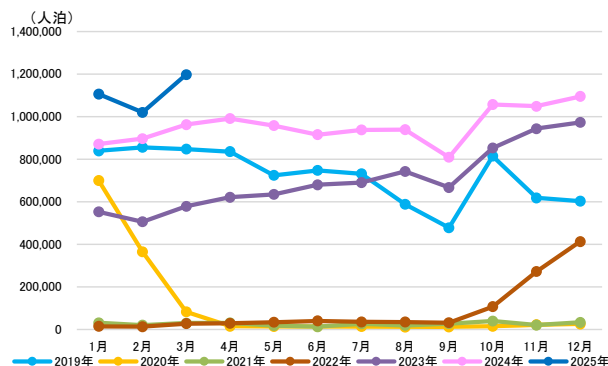
<訪日外国人と日本人の旅行消費額と九州圏が占める割合>



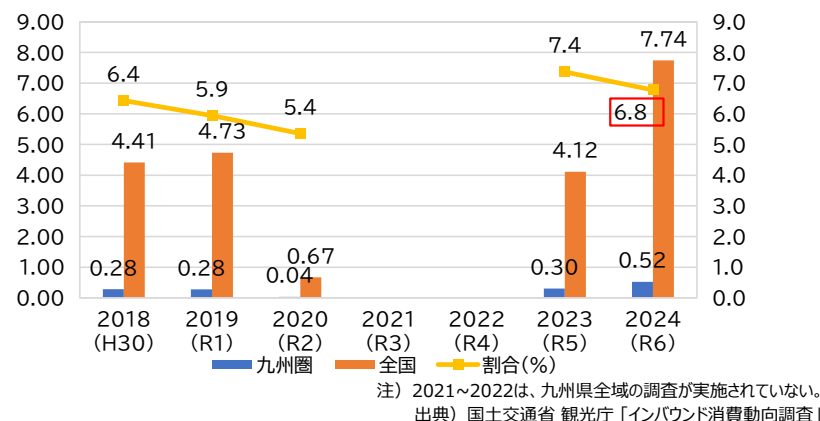
コロナ禍前の2019年と2024年の比較

	2019年	2024年	対2019年 年比	2019年 対全国比	2024年 対全国比
全国	115,656,350	164,462,600	42.2%		
九州地方	8,682,440	12,132,270	39.7%	7.5%	7.4%
三大都市圏	72,568,690	113,602,660	56.5%	62.7%	69.1%
福岡県	4,261,960	7,386,030	73.3%	3.7%	4.5%
佐賀県	359,240	229,300	-36.2%	0.3%	0.1%
長崎県	753,310	643,260	-14.6%	0.7%	0.4%
熊本県	934,990	1,471,730	57.4%	0.8%	0.9%
大分県	1,206,780	1,568,820	30.0%	1.0%	1.0%
宮崎県	326,260	213,080	-34.7%	0.3%	0.1%
鹿児島県	839,900	620,050	-26.2%	0.7%	0.4%

2019年1月～2025年3月 九州における推移



訪日外国人の旅行消費額



出典 国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2019～2023年は確報値、2024年～2025年は速報値)

注) 2021～2022は、九州県全域の調査が実施されていない。
出典 国土交通省 観光庁「インバウンド消費動向調査」

第1部 九州圏の現状と課題

【災害と環境保全】

- 九州圏では、従来から自然災害による甚大な被害に見舞われてきた。
- 今後も風水害・土砂災害・火山災害や南海トラフ巨大地震等の災害リスクが存在しており、対応が急務となっている。
- 特に九州圏は、離島・半島・中山間地域等が多く、甚大な自然災害が発生した場合、復旧・復興に際して大きなリスクを伴うため、その低減への取組が求められる。
- 九州圏には、屋久島や奄美大島、徳之島の世界自然遺産のほか、自然公園、ジオパーク、エコパーク、温泉等、個性的で貴重な自然環境が豊富に点在しており、これらの自然を保全し、地域の資源としていかしていく必要がある。
- 再生可能エネルギー発電電力量は太陽光発電を中心に、福岡県北九州市や長崎県の風力、大分県の地熱等、地域特性をいかした発電が行われている。
- 再生可能エネルギーの出力制御が他圏域と比べて多い状況である。

＜九州圏にて近年発生した災害と 南海トラフ巨大地震時の津波被害甚大エリア＞



＜九州圏の自然環境の分布＞



世界自然遺産

1. 屋久島
2. 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

国立公園

1. 瀬戸内海国立公園
2. 西海国立公園
3. 雲仙天草国立公園
4. 阿蘇くじゅう国立公園
5. 霧島錦江湾国立公園
6. 屋久島国立公園
7. 奄美群島国立公園

ユネスコ世界ジオパーク

1. 阿蘇ユネスコ世界ジオパーク
2. 島原半島ユネスコ世界ジオパーク

ユネスコエコパーク

1. 屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク
2. 綾ユネスコエコパーク
3. 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

出典) 国土交通省九州地方整備局

＜優先給電ルールに基づく再生可能エネルギーの出力制御＞

九州	2021年度				2022年度				2023年度			
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
再生可能エネルギーの出力制御率*	0.9%	4.0%	2.9%	3.9%	3.0%	8.3%	0.04%	0.01%	0.5%	0.8%	0.9%	0.8%
再生可能エネルギーの出力制御率**	0.2%	0.6%	0.1%	0.5%	0.4%	1.8%	0.08%	0.3%	0.2%	0.6%	0.1%	0.3%

九州圏では他地域と比べて、再生可能エネルギーの出力制御が多い



＜新エネルギー発電電力量・電源別構成比＞

新エネルギー計 (万kwh)	電源別構成比 (%)					
	風力	太陽光	地熱	バイオマス	廃棄物	蓄電池
全国	13.7	35.4	2.9	42.4	5.4	0.2
福岡県	0.2	20.1	0.0	74.5	4.0	1.2
佐賀県	31.0	38.8	0.0	30.2	0.0	0.0
長崎県	43.8	52.5	0.0	3.4	0.0	0.4
熊本県	0.8	51.2	0.0	43.2	4.8	0.0
大分県	1.3	28.0	37.8	29.5	3.5	0.0
宮崎県	11.3	40.6	0.0	42.9	5.2	0.0
鹿児島県	12.4	48.2	17.4	22.0	0.0	0.0

出典) 経済産業省 資源エネルギー庁「電力調査統計表」(2024年度)より作成

出典) 経済産業省 資源エネルギー庁「再生可能エネルギーの出力制御の抑制に向けて (2024年)」

第2部 九州圏の将来像／第3部 将来像実現に向けた目標

九州圏の将来像

アジアの成長センター『アイランド九州』 ～個性・魅力を発揮しながら、ひとつにまとまり発展し、誇れる九州～

将来像実現に向けた目標

目標1 成長エンジン「アイランド九州」～交流と変化を競争力へ～

ゲートウェイ機能を強化し、多様な人々が集い賑わう国際交流拠点を形成することで、国際競争力の向上とイノベーションによる新たな産業の創出を促し、圏域内の経済や暮らしを成長させるとともに、その効果を国内他圏域へ拡大する重要な役割を果たす。

目標2 自立型広域連携「アイランド九州」～快適で幸福な暮らしへ～

離島・半島・中山間地域等を含め、重層的な生活・経済圏域を基盤としてデジタルとリアルの融合による多様なネットワークで連結することで、地域生活圏の形成や都市の利便性と地方の快適性が共生した「住みたい」「働きたい」「育てたい」と思うことができる魅力的な生活環境を形成し、幸福度の高い、自立型広域連携「アイランド九州」を目指す。

目標3 強く美しい「アイランド九州」～持続可能でしなやかな社会へ～

地震や豪雨、火山等による大規模自然災害等に対し、強靱な九州圏を構築するとともに、美しい自然を保全し、環境負荷の少ないカーボンニュートラルの実現をリードする、強く美しい「アイランド九州」を目指す。

第4部 九州圏における主要な施策(プロジェクト・施策)

将来像実現へ向けた3つの目標の実現に向け、7つのプロジェクト（PJ）を推進する。



※主要なつながりのみ示しています

【PJ1】アジア、そして世界と日本の交流・連携・成長拠点プロジェクト

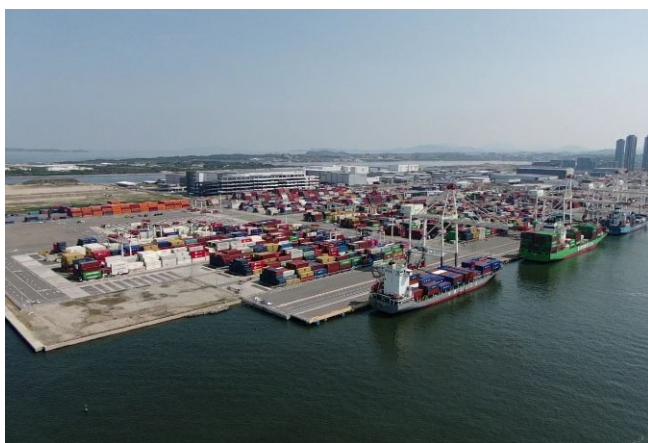
目的・コンセプト

- アジア諸地域に近接した立地特性をいかして、海外との交流・連携を促進し、国際競争力を強化することで、九州圏がまず元気に成長し、アジアの「成長センター」となってアジアの経済をけん引する存在になることを目指す。
- アジアのゲートウェイとして、アジア諸地域との交流を円滑かつ効率的に行うとともに、交流を国内各圏域へ拡大するため、シームレスな陸海空のネットワークを整備する。

1. アジア等諸地域との交流・連携の促進

国際競争力の強化

- 九州圏の産業を下支えするインフラ整備、諸外国との物流、人流が円滑・効率的となる環境整備の推進



出典) 国土交通省九州地方整備局

博多港アイランドシティ地区国際海上コンテナターミナル整備事業▶

総合的なゲートウェイ機能の強化

- 陸海空の総合的ネットワークの構築による九州圏の経済活性化、観光産業拡大



出典) 長崎港松が枝国際ターミナル 管理事務所

長崎港松が枝地区旅客船ターミナル整備事業▶
クルーズ船誘致に向けたハード事業

アジア等諸地域との経済交流・連携の一層の促進

- 外国人の入出国の円滑化や受入環境整備、国際的な物流システムの整備を推進
- アジア諸地域とのMOU(覚書)を活用した経済交流に関する取組の推進

アジア地域との
経済交流促進▶



出典) 九州経済連合会

グローバル人材の育成・登用

- 高度外国人材の採用・定着に向けた関連事業や留学生の受け入れ体制構築等により、グローバル人材活用を促進

熊本県多文化
共生支援事業▶



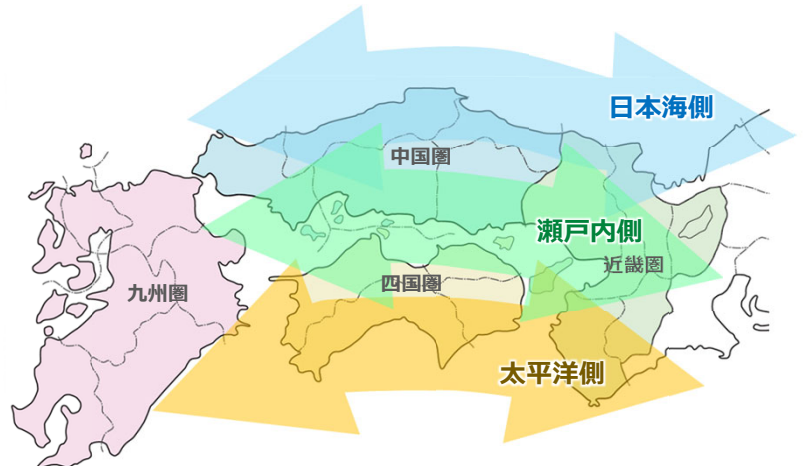
出典) 熊本県

【PJ1】アジア、そして世界と日本の交流・連携・成長拠点プロジェクト

2. 国内各圏域とのシームレスな連結強化による交流・連携の促進

シームレスな総合交通体系の整備

- 陸海空それぞれの交通モードが連携可能となるシームレスな交通体系を有効に活用した物流・人流の円滑化・効率化に向けた取組を推進



▲シームレスな幹線交通体系の構築

陸海空のネットワークの高質化

- 強靱な物流ネットワークの構築、物流拠点等の周辺のネットワークの充実等、物流支援の取組を推進



中津日田道路 ▶

出典) 国土交通省九州地方整備局

3. 九州圏に活力をもたらす国内外との交流・連携の促進

自然環境や歴史、文化、風土、水、景観等を活用した交流・連携の促進

- 九州圏固有の自然環境や歴史、文化、風土等を次世代に引き継げるように維持・保存するとともに、これらを活用し地域活性化を促進
- 自然資源や空間の活用、国内外との文化的交流・イベントの開催、新たな文化の創造により九州圏を活性化するとともに交流拠点の整備・充実を図る



▲セントラルパーク構想推進事業
大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用

【PJ3】強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

目的・コンセプト

- 基幹産業強化のため、DX・GXの推進など社会経済状況に対応した各産業の基盤整備を推進する。
- 基盤整備推進の取組を各産業にも波及させることで、経済安全保障と産業の生産拠点形成・強化を図る。
- 食料安全保障の強化を図るとともに、稼げる農林畜水産業を実現することで発展を促進する。
- 観光産業によって地域の消費拡大をけん引し、九州圏一体となった「観光アイランド九州」の発展を促進する。
- 産官学と連携し研究開発を推進し、スタートアップ企業や先端技術等の新たな産業の支援等を促進する。

1. 持続可能な産業の形成に向けた基盤整備

サプライチェーンの強靱化

- サプライチェーンの代替性・多重性を高め、強靱化を図る



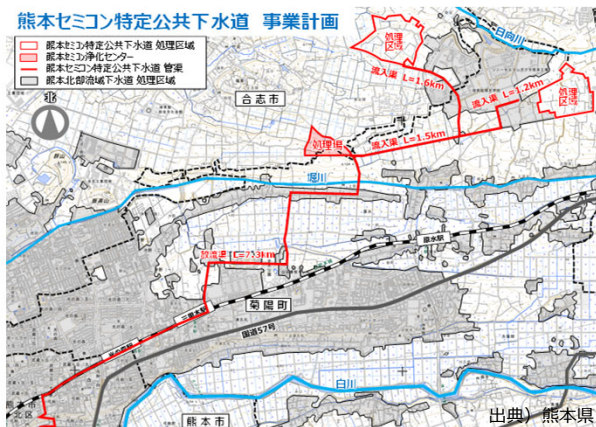
▲ 巖原港予防保全事業

離島における生活物資の供給・生産物の出荷を担う港湾の防波堤改良の推進

産業立地に向けたインフラ整備

- 各種インフラ等の受け入れ環境の整備を進め、半導体関連産業等新たな産業の立地を推進
- 半導体サプライチェーンの強化を推進

セミコンテクノパーク 周辺における特定 公共下水道事業▶



エネルギー分野の振興

- 安定的なエネルギーやクリーンエネルギーの供給の推進により、産業の新たな誘致や集積を目指す



洋上風力発電産業 集積促進事業▶

GX(※)成長投資の促進

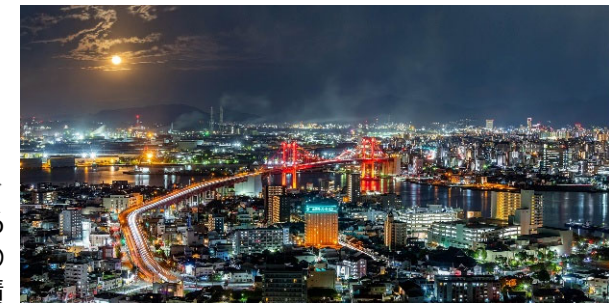
- 様々なインフラの脱炭素化を推進するとともに、脱炭素化に取り組む企業を増やすことで、国内外からの投資を呼び込み、国際競争力を強化

※化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと

データセンターの整備

- 豊富な電力供給力や再生可能エネルギーをいかし、通信網と併せてデータセンター整備を推進

バックアップ首都構想▶ 首都圏に集中する データセンター等の バックアップ機能の集積 (北九州市)

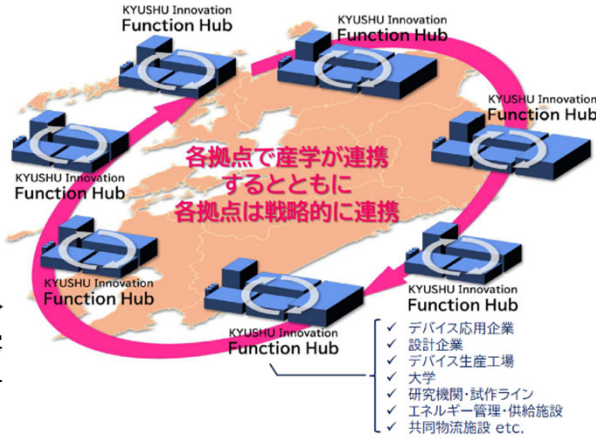


【PJ3】強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

2. 新生シリコンアイランド九州の実現

世界の中核を担う生産拠点への発展

- 多様な企業・大学・研究機関が国内外と連携するとともに、鉄道等の必要な交通インフラを整備することで、「新生シリコンアイランド九州」が、産業用先端半導体の世界的な製造拠点の中核を担うことを目指す



出典) 九州地域戦略会議

イノベーション・マルチハブ
大学・研究機関が集積する産学連携拠点を多極的に整備し、各拠点が戦略的に連携する構想

人材の確保・育成、サプライチェーンの強靱化

- 「九州半導体人材育成等コンソーシアム」の活動（人材育成・確保、サプライチェーン強靱化、海外との産業交流促進）を通じ、半導体による豊かな未来社会の実現を目指す



九州半導体人材育成等コンソーシアム
国や地方公共団体、産業界、教育界等で構成されたコンソーシアムによる半導体人材の育成・確保に向けた取組

出典) 九州経済産業局

3. カーアイランド九州の発展

世界に選ばれる生産拠点の形成

- EV / FCV の普及の基礎となる充電・水素インフラの拡大等、CASE（※）対応に対する支援体制を強化し、「カーアイランド九州」として次世代自動車産業をけん引

※コネクティッド、自動化、シェアリング・サービス、電動化など、産業構造を大きく変える可能性のある変化



▲「道の駅」におけるEV充電器の設置

出典) 国土交通省九州地方整備局

CASEに対応したサプライヤーの集積

- CASEに対応可能な地域サプライヤーの開発力強化と新規参入の促進によりサプライヤーの集積を図る



出典) 福岡県

▲九州各県の産学官が一体となったCASEへの対応
地元サプライヤーの提案力・開発力の強化、新規参入や企業の誘致

【PJ3】強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

4. フードアイランド九州の更なる発展

生産性向上に向けた取組

- スマート農業技術の現場実装の推進



▲スマート農業技術活用促進集中支援プログラム
栽培方式の転換やスマート農業技術等の開発を促進

出典) 九州農政局

農林畜水産業の更なる発展

- 自然環境に影響されない生産体制の確立等を推進
- 有機農業や条件不利地域農業の推進、関係人口の拡大
- 国産木材の需要拡大・利用促進、安定的・効率的な供給を進める

みやざき木の魅力発信事業▶
木材の魅力をPRする
拠点施設の整備の推進



出典) 宮崎県

農林畜水産物・食品の輸出拡大

- 農林畜水産物・食品の輸出拡大や食品産業グローバル展開を推進



「九州の食」輸出促進プロジェクト▶

九州一体となった官民協働の
輸出プロモーション

出典) 九州地方知事会

食料安全保障と持続可能な農林畜水産業の形成

- 農地の大区画化、集積・集約化、水田の畑地化・汎用化、荒廃農地の再生利用などによる生産基盤の維持・強化
- 担い手の育成・確保等による持続可能な農林畜水産業の形成



出典) 農林水産省

▲農業農村整備事業
農地の大区画化等のインフラの整備を推進

新たな価値の創造による需要開拓

- 現在普及している6次産業化商品の継続的な普及
- 高付加価値化・高収益化を図る

みやざきLFP強化支援事業▶
異業種連携による食資源の高付加価値化に向けた取組を推進



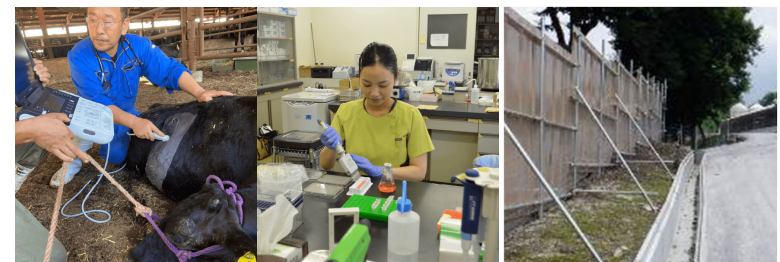
出典) 宮崎県産業振興機構

防疫体制の連携強化

- 家畜伝染病及び病害虫の発生予防措置及びまん延防止措置を徹底

家畜防疫体制の強化▶

産業動物獣医師の確保・育成強化
野生動物侵入防止壁



出典) 農林水産省 15

【PJ3】強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

5. 観光アイランド九州の形成

持続可能な観光地域づくり

- 地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化の推進
- 生産性向上と観光地経営の高度化に向けた観光DXの推進
- 労働環境の向上及び観光人材の育成、確保・定着を図る
- 国際基準に沿った持続可能な観光地域づくりの推進



▲九州自然歩道の活性化

出典) 福岡県

旅行需要の喚起・開拓による国内交流の拡大

- コンテンツの充実や魅力の向上、広域連携による周遊・滞在長期化の促進
- 国内交流の拡大
- ユニバーサルツーリズムの推進



出典) 大分県

▲長崎県・熊本県・大分県が連携した観光プロモーション



出典) 宮崎県

▲熊本県・宮崎県・鹿児島県が連携した広域周遊観光

誘客と観光消費額の拡大を重視したインバウンドの推進

- 高付加価値な広域周遊観光コンテンツの創出、戦略的なプロモーションの実施、九州MaaS(※)の活用により、誘客・リピーターの拡大、観光消費額の増加を図る
- アドベンチャーツーリズムやスポーツツーリズム、デジタルノマドワーカー誘致に向けた施策を重点的に推進
- オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向け、受入環境の整備や、需要の適切な管理、マナー違反行為対策、観光地周辺の渋滞対策などの取組推進
- 交通結節点や「道の駅」等の休憩施設等での拠点機能の強化



出典) 九州経済連合会

欧米豪から選ばれるための
サイクルツーリズムなどの推進▶



出典) 九州経済連合会

九州MaaS活用による
誘客・リピーターの拡大、
観光消費額の増加▶

※地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

【PJ3】強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

6. 地域の特色豊かな産業の更なる発展と新たな産業の創出

造船業の競争力強化

- 次世代の人材育成と造船技術の継承等に積極的に取り組み率的な生産体制構築を推進



出典) 国土交通省九州運輸局

海事産業次世代人材育成事業▶
将来を見据えた小・中・高の学生を対象とした見学会

ロボット産業の発展

- 民生用ロボットの開発支援や、地域企業へのロボット導入支援などを行い、ロボット産業の規模を拡大し更なる発展を目指す



ロボット・DX推進センター▶
出典) 北九州市ロボット・DX推進センター

バイオ関連産業の育成

- 地域特性に応じた特色あるバイオ関連産業の振興、新産業・バイオスタートアップの創出拠点の形成や人材育成、他産業との情報交換の場を創出

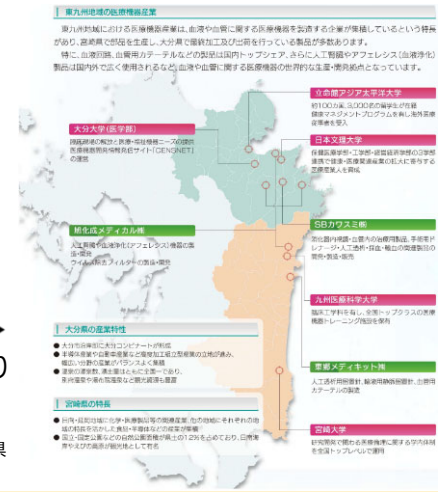


**福岡バイオ
コミュニティ**
FUKUOKA
BIOCOMMUNITY
出典) 福岡県

福岡バイオコミュニティ推進会議▶
バイオ関連企業、研究機関、金融機関、行政などが集積・連携するバイオエコシステムの形成を推進

医療・ヘルスケア・コスメ分野の振興

- 産業集積をいかし、「地域・産業の健康化」、「健康の産業化」を推進

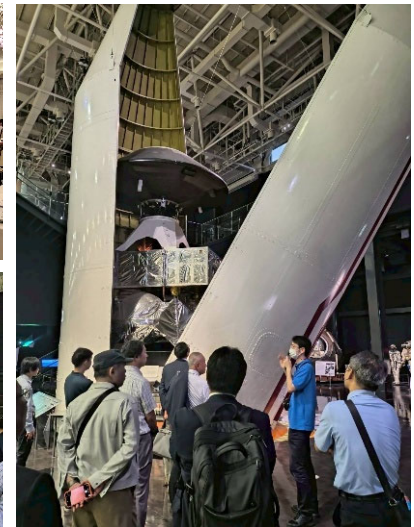
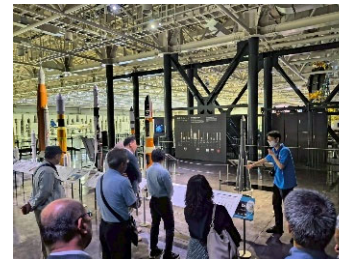


東九州メディカルバレー構想▶
医療関連機器産業等の拠点づくり

出典) 大分県

航空・宇宙産業の振興

- サプライチェーンの構築・強化
- 宇宙産業のエコシステム形成



出典) 佐賀県

▲航空宇宙産業魅力発信事業
宇宙開発に関する認知・機運の拡大、参入環境・支援体制の改善

【PJ3】強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト

6. 地域の特色豊かな産業の更なる発展と新たな産業の創出

再生可能エネルギー産業の発展

- 再生可能エネルギーの導入拡大を進め、再生可能エネルギー産業の発展を図る
- 再生可能エネルギーの発展に資する研究開発や専門人材の育成を推進



出典) 大分県

▲地域の特色と強みを生かした再生エネルギー導入支援・エネルギー産業育成
大分県版水素サプライチェーン構築に向けた取組

ベンチャー・スタートアップ推進とイノベーションの創出

- 九州発のスタートアップ・エコシステムを強化し、世界に飛ばたくベンチャー・スタートアップの輩出を目指す



出典) 福岡県

▲九州ベンチャー支援プロジェクト
世界に飛ばたくベンチャー・スタートアップの輩出を目指した取組

情報・コンテンツ産業の発展

- 情報サービス産業およびコンテンツ産業に関して、産業拠点の形成を図りつつ人材の発掘・育成や、ビジネス機会の創出を推進



▲福岡ゲーム産業振興機構の取組
世界的ゲーム都市を目指すための広報事業等



▲福岡県未来ITイニシアティブの取組
福岡県未来ITスタートアップアワードの開催

出典) 福岡県

先端技術・ビッグデータの利用促進

- 関連データ・技術のオープン化等を推進
- 多様なステークホルダーが共創できる環境を整え、多様な主体による社会実装を推進



出典) 大分県

▲ドローン産業推進事業
産業用ドローンの研究開発、利用用途の拡大、実証試験を推進

【PJ 4】中核中核都市を核とした魅力あるまちづくり推進プロジェクト

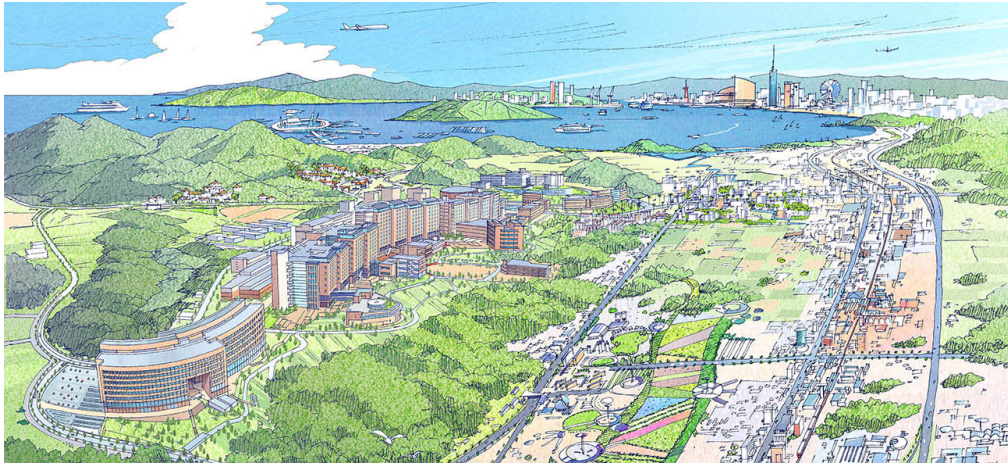
目的・ コンセプト

- 中核中核都市等の拠点機能を強化し、都市コミュニティの再生により、多世代が交流できる拠点の活性化を図る。
- 広域圏内の情報ネットワークを強化し、各県が自立しつつも圏域一体となった自立的な経済循環システムを構築する。

1. 中核中核都市等を核とした自立型広域連携

高次の都市機能、サービス産業の集積

- 魅力ある都市拠点の形成を目指し、官民が連携して市街地を整備する



出典) 公益財団法人 九州大学学術研究都市推進機構

▲ 九州大学学術研究都市づくり

人口のダム機能(※)となる魅力の向上

- 都市機能の発展、雇用の創出、生活環境の整備等により魅力を向上

WITH THE KYUSHU

九州の拠点都市として九州各地の自治体と連携し
九州の発展につなげることを目的とした各種取組を推進



出典) 福岡市

国際競争基盤の整備

- 民間都市開発プロジェクト、都市基盤の整備を推進し、中核中核都市の国際競争力を強化
- 海外からの高度人材や企業の誘致を促進



福岡高速3号線 (空港線) 延伸事業▶ 福岡空港への アクセス強化

出典) 福岡北九州高速道路公社

デジタルのネットワークの強化

- 光ファイバ、5Gの整備により情報ネットワーク強化
- 様々なデジタルプラットフォーム構築を推進

※九州圏から東京などへの人口流出を抑えるために、圏域各県の中核中核都市が受け皿となり、転入者を集積する機能。

【PJ4】中枢中核都市を核とした魅力あるまちづくり推進プロジェクト

2. 多世代交流の拠点となる都市コミュニティの再生

人中心のコンパクトな多世代交流まちづくり

- 日常生活を営む身近で歩いて行ける近隣エリアにおいて、地域の生活サービス機能を集約し、生活拠点を形成するとともに、コンパクトで安全な都市を形成



巨過土地区画整理事業 ▶

出典) 北九州市

居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり

- 「ウォーカブル推進都市」を増加させ、街路等の広場化、民地のオープンスペース化、道路空間再配分などの取組を拡充
- 地域資源をいかした魅力あるまちづくり、魅力的な水辺空間の整備・活用等を推進
- 道路空間への多様なニーズに応える取組を推進



出典) 宮崎県

高千穂通り道路空間再編事業 ▶

中心市街地の活性化と地方都市の再生

- 中心市街地の商業・交流施設整備や空き地活用、企業誘致を通じて、魅力あるまちづくりを推進し、消費と地域経済循環を促進



末広町一丁目地区
第一種市街地再開発事業 ▶

出典) 大分市

ライフスタイルの変化に合わせたまちづくり

- 先端技術の導入などによる、未来に誇れるまちづくりの推進



九州大学移転跡地
(箱崎地区)のまちづくり ▶

出典) 九州大学、UR都市機構公表資料

生き生きと暮らせるコミュニティの再構築、多世代交流の推進

- 地域のコミュニティ形成推進のため、憩いの場となるオープンスペースの整備、既存の公共施設の活用推進等により、多世代交流の場にコミュニティ創造拠点の整備を推進する

海の中道海浜公園の
整備及び管理運営 ▶



出典) 国営海の中道海浜公園

地域の活動を支える生活道路等のインフラ維持・整備

- 安全で人にやさしい道づくりや地域空間のユニバーサルデザイン化の推進
- 安全な市街地の形成、防災拠点の整備

ゾーン30プラス ▶
生活道路における人優先の安全・
安心な通行空間の整備推進



出典) 江北町

【PJ4】中枢中核都市を核とした魅力あるまちづくり推進プロジェクト

3. 地域を支える多様な人材が活躍できる環境づくり

共助共生の社会を実現する幸せコミュニティの形成

- ダイバーシティ・インクルージョンの推進と雇用拡大・所得向上等により、誰もが望む暮らし方・働き方を実現し、暮らしやすさを向上
- 「こどもまんなかまちづくり」を進め、子育て環境整備やユニバーサルデザイン空間の創出、質の高い医療・福祉・介護体制で快適に暮らせる地域を実現



「道の駅」のあらゆる世代が活躍する舞台となる地域センター化▶
「道の駅」における子育て応援施設の整備

出典) 国土交通省九州地方整備局

女性活躍の推進

- 柔軟な働き方を推進し、仕事と子育ての両立がしやすい環境を確保
- 九州における女性の雇用の確保、キャリア形成の推進
- 職場に限らず地域活動においても女性活躍の場を確保し、自らの個性と能力を自由に発揮できる魅力ある地域づくりを推進

子育てランド九州プロジェクト▶
男女の共家事・共育の推進等、仕事と子育ての両立がしやすい環境の確保

出典) 九州地域戦略会議



多様な人々の活躍の実現

- 研究施設の設置や大学での新しい学科の創設等の環境整備
- 住居の紹介、生活面のサポートの充実等によるUIターン者の若者の就労推進



出典) 鹿児島県

外国人材の定着

- 社会保険、子育て、医療機関等に関する相談窓口や、在留資格取得手続きを始めとした外国人材の受け入れから定着までの企業への伴奏支援などを推進



外国人のみなさんが生活の中で困っていること、分からないことをいろいろな言葉で相談できます。気軽に相談してください。※お金はかかりません。※依頼は守ります。



FUKUOKA IS OPENセンター▶
福岡県在住外国人からのさまざまな相談にワンストップで対応する窓口

出典) 福岡県

▲障害者施設等工賃向上計画推進事業
農福連携による障がい者の就労支援

【PJ5】離島・半島・中山間地域・都市をつなぐ地域生活圏形成プロジェクト

目的・コンセプト

- 地方の豊かさと都市の利便性の融合、デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成を推進する。
- 関係人口の拡大・深化、地域を支える多様な人材が活躍できる環境整備を行い、地域活性化につなげる。

1. 交通ネットワークとデジタルの融合による地域生活圏の形成推進

共創による交通活性化と新たなモビリティ社会の実現

- 地域に即した利便性・生産性・持続可能性の高い地域公共交通ネットワークの「リ・デザイン」推進
- 「交通空白」の解消に向けた官民、交通事業者間、交通・他分野間の「連携・協働（共創）」した取組を推進

3つの「共創」

官民の共創
・エリア一括運行事業
・バスの上下分離
・官による投資 等

交通事業者間の共創
・独禁法特例法の活用等による共同経営・路線再編
・モードの垣根を越えた運賃・サービス 等

多様な分野との共創
医療・介護・福祉、こども・子育て、教育・スポーツ・文化、商業・農業、宅電・物流、エネルギー・環境、地域・移住、金融・保険、観光・まちづくり
×交通 による事業連携

交通DX

自動運転
AIオンデマンド交通・MaaS

交通GX
交通のコスト削減・地域のCN化

EV/FCV
EVバス充電設備

出典) 国土交通省九州運輸局

デジタル活用による地域活性化

- ビッグデータの活用によるデータ分析やデータ連携プロジェクトの推進
- 各分野でのデジタル化推進による効果的な地域活性化

九州DX推進コンソーシアム▶
九州圏全体でのビッグデータの活用によるデータ分析やデータ連携プロジェクトを推進



九州DX推進コンソーシアム 設立記者会見の様子。九州経済連合会、九州大学、福岡県、デロイト トーマツが参加している。


出典) 九州経済連合会

2. 小さな拠点を核とした集落生活圏の構築による地域生活圏の形成

地域コミュニティの維持・定住に向けた集落生活圏の形成

- 小さな拠点を結び、暮らしやすい集落生活圏を形成し、地域コミュニティの維持や定住促進を図る
- 空き家の活用や移住・二地域居住の環境整備を通じて、中山間地域の課題を解決

遠隔教育センター運営事業▶
条件不利地域における教育環境の改善



出典) 長崎県

離島・半島の地域資源をいかした自立的発展

- 都市部との道路ネットワークの構築や災害時の代替手段を備えた交通アクセスを確保し、農林水産物輸送コストの低減や観光振興を推進
- 情報ネットワーク整備による遠隔医療・教育の促進と、地域資源を活用した観光活性化や定住促進を図る



熊本天草幹線道路のルート図。天草市、本渡市、松島町、大矢野町、宇土市、熊本市を結ぶ。各区間の距離や建設状況が示されている。

出典) 国土交通省九州地方整備局

美しく暮らしやすい農山漁村の形成

- 美しく暮らしやすい農山漁村の形成を図る
- 第6次産業化を進め、新たな生業の創出と雇用の確保を推進

▲熊本天草幹線道路



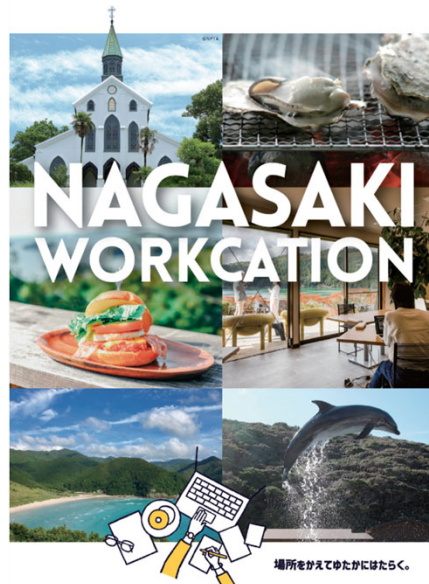
出典) 熊本県

【PJ5】離島・半島・中山間地域・都市をつなぐ地域生活圏形成プロジェクト

3. 地域生活圏を支える地域づくり・人づくり

二地域居住等の促進による関係人口の拡大・深化

- 場所に縛られない暮らし方・働き方の実現で移住者、関係人口の拡大



東京圏からの起業・創業や就業、
テレワーク移住等への支援▶
県内リモートワーク受入推進
市町情報やリモートワーク施設を紹介

出典) 長崎県移住支援公式HP

地域を支える人材や資金の確保

- 地方における良質な雇用の受け皿となることが期待される中堅企業等の成長を促進
- 持続可能な地域づくりを担う主体の成長・創出を推進



若年者就業支援
(若者サポートステーション) ▶

出典) 福岡県

官民共創の推進

- 地方公共団体による地域課題解決や人材育成等に取り組む組織の設立への関与
- ソーシャルビジネスのエコシステム構築



▲九州風景街道
民間企業や地域住民が主体となった地域づくり

地域商社▶
地域商社が中心となった
シティプロモーション



出典) 株式会社西海クリエイティブカンパニー

【PJ6】経験をいかした防災と豊かな環境の保全・創出プロジェクト

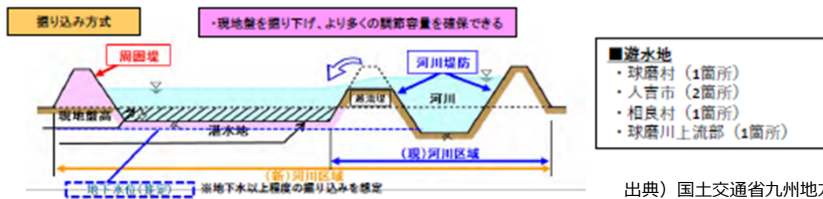
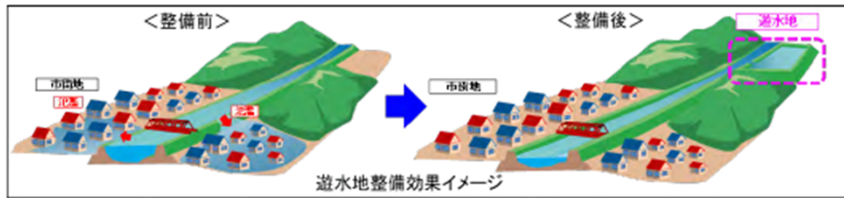
目的・コンセプト

- インフラ整備等のハード対策とともに、地域での防災活動等のソフト対策を推進、発災時の体制確保を行い、国土基盤の高質化・強靱化を推進する。
- 人口減少下におけるデジタルを活用した国土の適切な利用・管理を推進する。
- 九州圏の豊かな自然環境と共生するグリーン国土の創造を推進する。

1. 地域の安全、安心、暮らしや経済を支える国土基盤の高質化・強靱化

防災・減災、国土強靱化の推進

- 災害リスクの軽減を図り、安全・安心な九州圏の形成を図る



出典) 国土交通省九州地方整備局

▲ 球磨川水系緊急治水対策プロジェクト 豪雨からの復旧・復興に向けた治水対策プロジェクト

多重性・代替性確保等による災害に強い国土構造の構築

- 交通・物流ネットワークの強靱化に向けたハード整備
- 災害時に通行可能な道路情報を迅速に提供する体制の整備



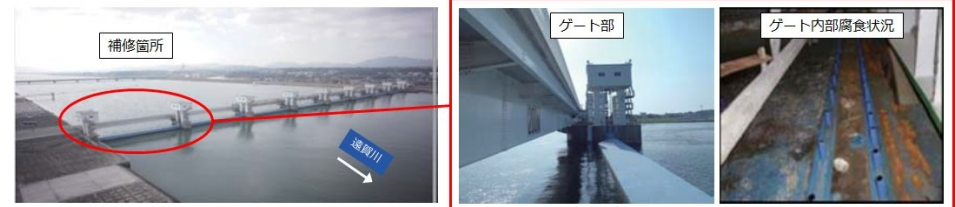
名瀬港予防保全事業 ▶ 岸壁耐震改良を推進

出典) 国土交通省九州地方整備局

地域インフラ群再生戦略マネジメント(※)による国土基盤の高質化

- 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策の加速
- 官民が連携したメンテナンス体制の確保

※複数・広域・多分野のインフラを「群」として捉え、総合的かつ多角的な視点から戦略的に地域のインフラをマネジメントとすること。



出典) 国土交通省九州地方整備局

▲ 遠賀川河口堰 直轄堰堤維持事業

災害に対する広域連携体制及び支援の強化

- 広域防災拠点の整備や訓練等による自治体相互で顔の見える関係の構築を推進
- TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊) 等の支援強化



南海トラフ地震広域 連携訓練 ▶

【PJ6】経験をいかした防災と豊かな環境の保全・創出プロジェクト

1. 地域の安全、安心、暮らしや経済を支える国土基盤の高質化・強靱化

地域防災力の強化

- 企業と連携した防災力の維持・強化や田んぼダムの普及・拡大など、地域防災力の更なる向上を促進
- 防災拠点として「道の駅」の機能強化を推進



都市防災機能の強化

- BCP(事業継続計画)策定と都市の耐震・防災対策を進め、ソフト施策も含めて防災力を強化



都市公園事業



都市防災総合推進事業



都市防災総合推進事業



都市防災総合推進事業

出典) 国土交通省九州地方整備局

▲都市防災総合推進事業

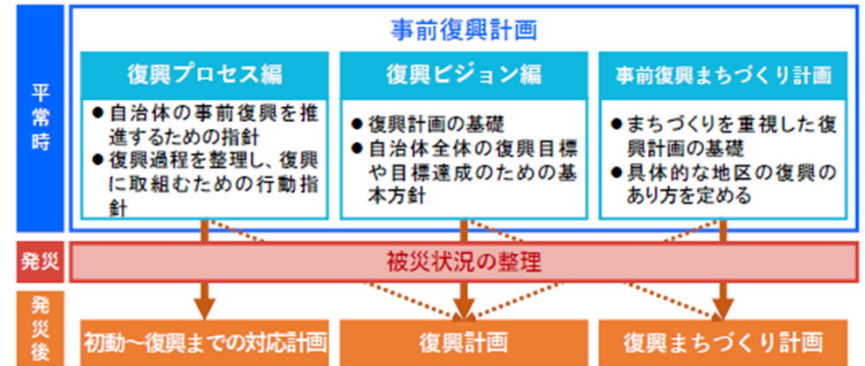
避難地・避難路・ライフラインの整備などの総合的な防災対策を推進

災害に対する脆弱性への対応

- エリア外への居住誘導など、平時から災害リスクを踏まえたまちづくりを目指し、孤立が想定される地区では関係機関が連携した訓練や受援計画に基づく訓練を実施

平常時からの復興事前準備の促進

- 平常時からの復興事前準備を促進



出典) 佐伯市

▲佐伯市事前復興計画

大規模災害を想定した事前復興計画の策定支援

渇水対策

- 関係機関との効果的な水運用の調整を図るとともに、関係機関が連携し、渇水による影響や被害を軽減するための対策等を定める、渇水対応タイムライン(時系列の行動計画)作成の推進を図る

感染症対策

- 官民連携による広域的な感染症対策に取り組む

【PJ6】経験をいかした防災と豊かな環境の保全・創出プロジェクト

2. 人口減少下の国土の利用・管理

持続可能な国土と地域の形成

- 「国土の管理構想」を通じた住民の発意と合意形成を基礎とする地域管理構想等の取組

国土利用・管理DXの実装推進

- 地方公共団体のデータをオープン化し、利活用を促進
- 利用者ニーズに応じたデータ連携やデジタル技術活用を環境を整備



出典) 国土交通省九州地方整備局

国土利用・管理DXに関する取組▶
DX技術を活用した河川・ダム管理の効率化・高度化

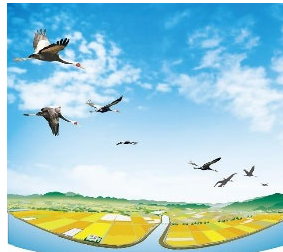
3. グリーン国土の創造

健全な生態系の保全・再生

- 自然環境を次世代に継承するため、保全・創出の取組を積極的に推進
- 河川や道路で生物多様性やネイチャーポジティブ(※)の取組を推進

※自然再興。生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること

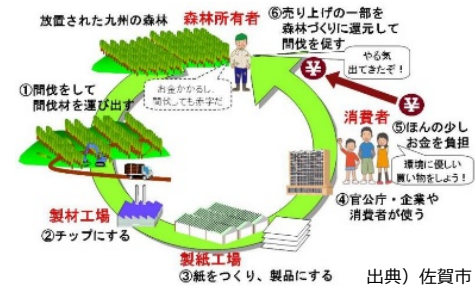
ラムサール条約の登録湿地の保全▶



出典) 出水市

物質循環の確保と循環型社会の形成

- 適正な循環的利用を行い、「地域循環共生圏」を創造・連携する取組を推進



国民が支える森林づくり運動▶

出典) 佐賀市

カーボンニュートラルの実現

- 地域脱炭素化と産業のグリーン化を推進し、資源の効率的活用と自然の利点をいかす
- GHG(温室効果ガス)排出削減に向けたオフセット環境整備を進め、脱炭素社会を実現を図る
- 道路・ダム・港湾・空港などインフラ分野でカーボンニュートラル化を推進



**GHGの排出削減に向けた
カーボン・オフセット環境整備**▶
J-クレジット制度の活用促進

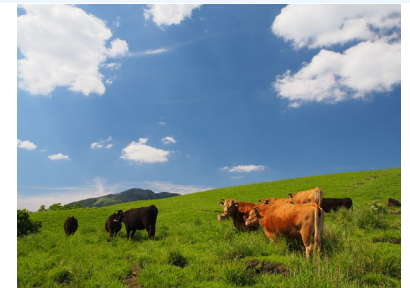
出典) Jクレジット事務局HP

大気環境の保全、土壌汚染対策の推進

- 火力発電所や自動車排ガスの削減、国際協力によるPM2.5対策を推進
- 建設発生土など自然由来の有害物質の適切な処理・流出防止体制を強化

美しい景観、魅力のある空間の保全、創出と活用

- 景観に配慮した国土管理と環境整備を通じて景観保全を推進
- 住民・企業・行政が連携し、地域資源と知恵をいかした地域活性化を促進
- 河川や水辺空間の創出にあたり、周辺環境や景観、利用に配慮した取組を推進



出典) 農林水産省九州農政局

▲阿蘇草原再生の推進 26

【PJ7】国内他圏域との連携プロジェクト

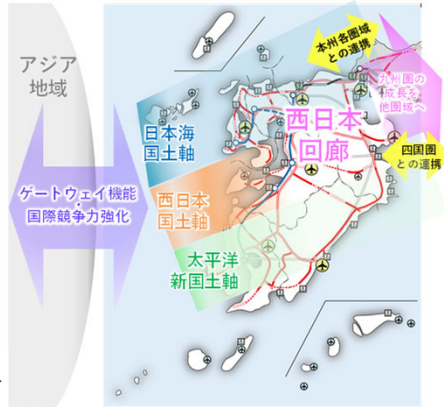
目的・コンセプト

- 国内他圏域との交流・連携、広域的な機能の分散と連結強化等により「国土の均衡ある発展」を実現する。
- 時間距離の短縮等を図る質の高い交通やデジタルのネットワーク強化を通じ、国内とシームレスな連結強化による「全国的な回廊ネットワーク」の形成を図り、国内他圏域との交流・連携を推進する。

1. 国内他圏域との交流・連携、広域的な機能の分散と連結強化

回廊による連携

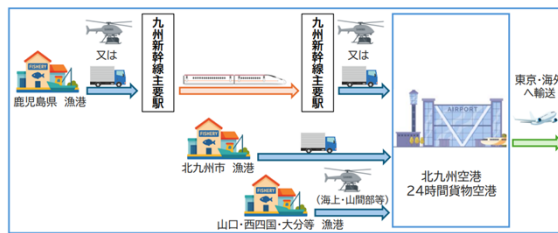
- 経済連携や災害時の冗長性確保を踏まえ、幹線交通体系の構築・高質化を推進
- 近畿圏・中国圏・四国圏を結ぶ「西日本回廊」を形成し、国内他圏域との連携を強化



西日本回廊の形成イメージ▶

物流効率化に向けた連携

- 複合一貫輸送サービスの機能強化など、国内他圏域と連携した取組を推進



地域連携 モーダルシフト促進事業▶

九州・山口・西四国 次世代空陸連携モーダルシフト

観光分野の連携

- サイクルツーリズムやクルーズ船ツアー、世界遺産・日本遺産などを活用した観光連携を推進
- 幅広い国・地域からの誘客を図るため、西日本・九州の自治体等と連携した広域観光の取組を実施



西のゴールデンルート▶

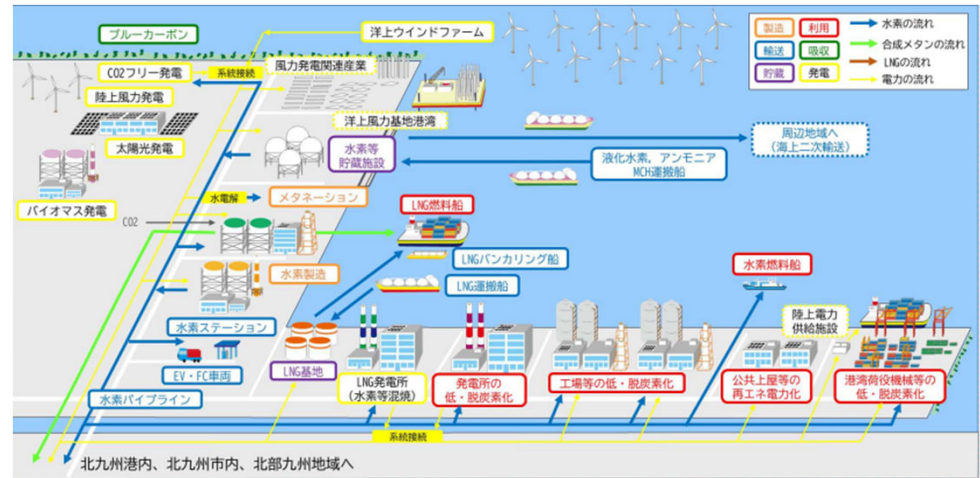
新たなJAPANを開拓せよ。
出典) 福岡市

広域防災連携

- 災害応援派遣体制や防災ネットワークを構築し、瀬戸内海で緊急航路を確保
- 国内他圏域と連携した防災・減災の取組を推進

環境分野の連携

- カーボンニュートラルポートやグリーンコンビナートを拠点としたグリーンエネルギー供給体制を構築し、脱炭素化に取り組む
- 閉鎖性海域である瀬戸内海の環境保全・再生等、国内他連携した取組を推進



▲北九州港港湾脱炭素化推進計画

出典) 北九州市

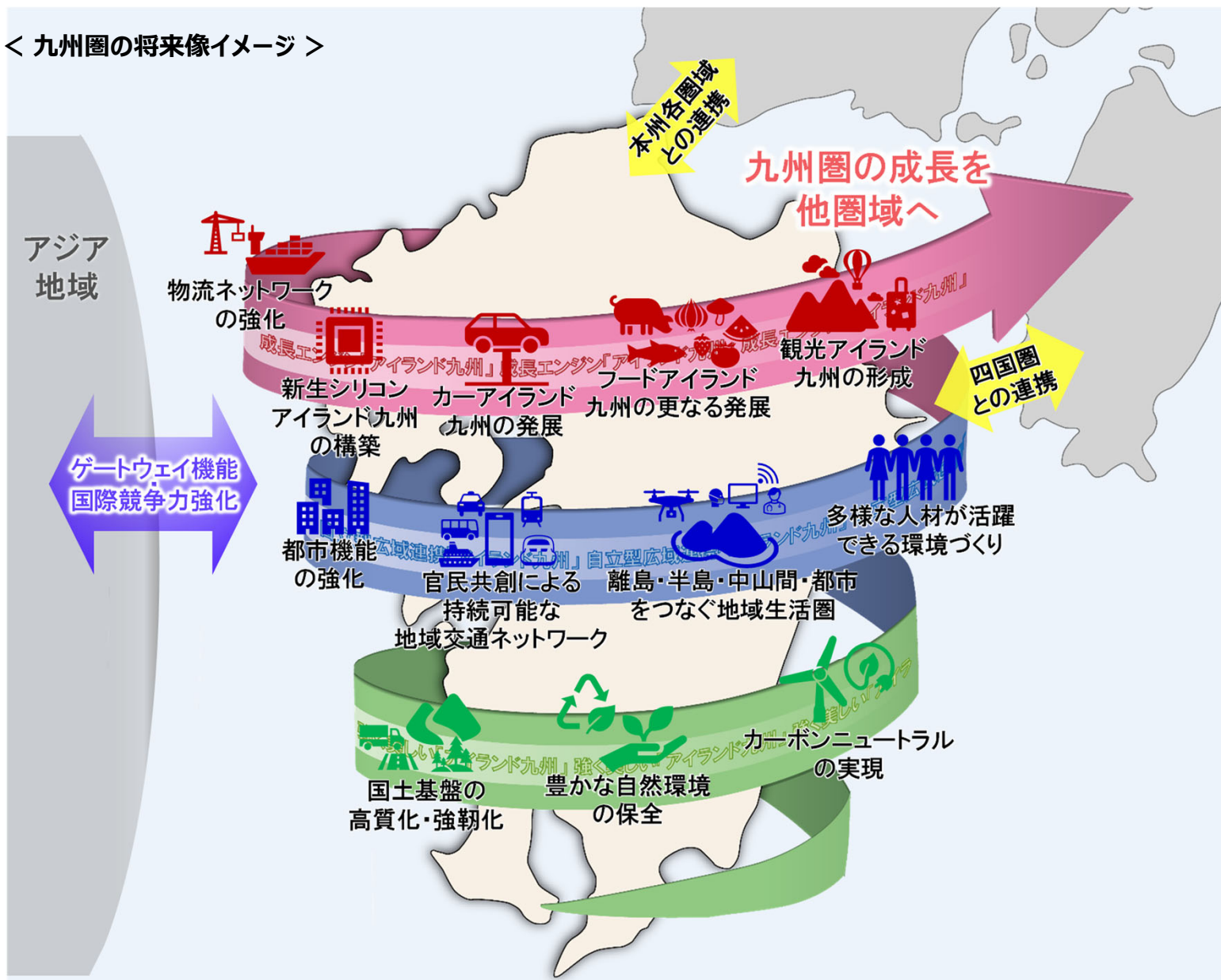
生活圏の連携

- 災害、事故等発生時の代替性を確保し、観光振興・市民交流なども含めた「関門新連携」を推進

2050年の九州圏（将来像）イメージ

住む人・関係する人すべてが「九州はひとつ」として連携し、個性・魅力を発揮しながら、力を合わせて様々な目標に向けて歩いていくことで、アジアの成長をリードし、国内だけでなく世界に誇れる圏域になる。

< 九州圏の将来像イメージ >

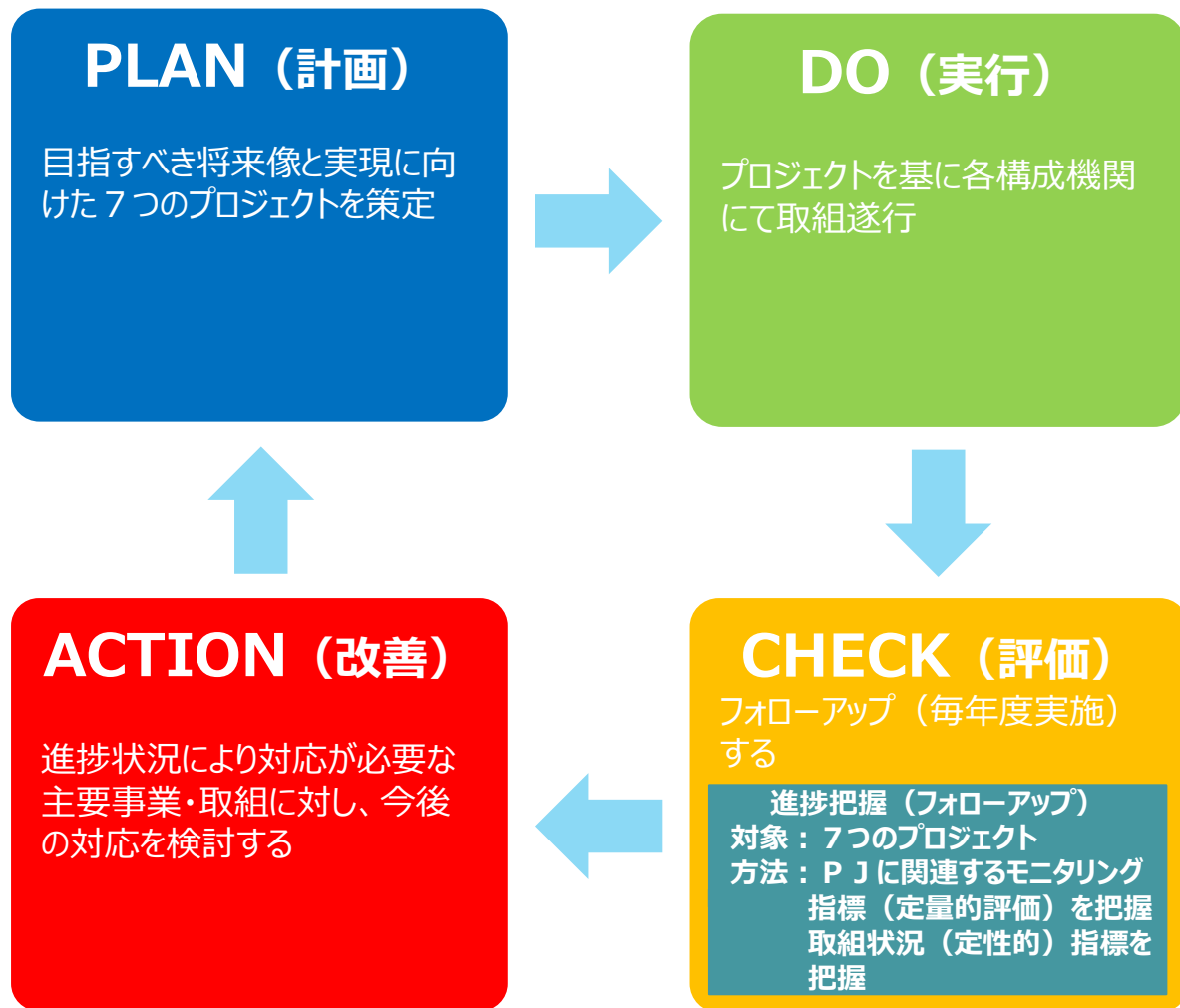


第5部 計画の推進等

将来像・目標の達成に向けた取組を推進するとともに、プロジェクトごとに担当を定め、毎年度、各種施策の進捗状況を把握し、定性的または定量的な検証を行い、推進に当たっての課題とその対応の検討を行う。

※全国計画や他圏域における検討も踏まえ、フォローアップの具体的な方法（フォローアップの対象、モニタリング指標、推進体制等）は、令和8年度に検討する

継続的なフォローアップイメージ



推進体制イメージ

